| | |
|---|---|
| 銀行名 | 清水銀行 |
| タイトル | 自治体との連携による移住・創業促進支援 |
| 取組み内容 | 【動機】<br>・東京で家具販売会社に勤務しているＡ氏が、地元静岡での創業を検討し、東京にあるＳ市移住促進センター(静岡県)へ相談のため訪問。<br>・Ｓ市移住促進センターでは、創業計画をヒアリングし事業の実現可能性があると考え、Ｓ市より地方創生にかかる連携協定を締結している当行に対して相談あり。<br><br>【取組内容】<br>・開業計画について聴取し、投資計画、資金計画の妥当性を検証し、Ａ氏と協議しながら計画の修正等を実施。<br>・また取組にあたっては、当行が創業支援に関する業務提携を締結している日本政策金融公庫とも共有し、計画の検証を図った。<br>・Ａ氏は最終的に法人Ｂを立ち上げし、Ｂに対して日本政策金融公庫と協調融資を行った。<br>・本件創業者向けの当行独自融資商品である“ しみず創業支援資金 ”を利用。<br><br>【取組効果】<br>・Ｓ市移住促進センター(静岡県)による、東京から静岡へ移住を伴う初の創業支援を行うことで、地方創生に資する取組みが出来た。<br>・外部機関と連携を図ったことで、幅広い観点で計画を精査することができた。<br>・協調融資としたことで、本計画に必要な資金対応をとることができた。 |

| | |
|---|---|
| 銀行名 | 清水銀行 |
| タイトル | 後継者不在の事業者に対する第三者承継支援 |
| 取組み内容 | 【動機】<br>・包装資材の企画、卸売販売を行うＣ社は、現代表者が高齢であり今後の事業継続に関して、社内に後継者もいないことから廃業も視野に入れているとの相談あり。<br>・業歴長く取引先からの信頼が厚いことに加えて財務内容も良好であったことから、第三者承継による提案を行った。<br>・当行がＣ社のアドバイザリー(代理人)として承継支援を行っていくこととなった。<br><br>【取組内容】<br>・同業者や関連事業者等の引受候補先をリストアップする中、新分野ならびに新エリアへの事業展開を模索している倉庫業を主業とするＤ社が浮上。<br>・当行が、Ｃ社代理人としてＣ社概要の説明、条件交渉等を実施した。<br>・会計士や弁護士、司法書士等の専門家と連携しながら、条件面を詰めていき、株式譲渡契約の締結に至った。<br><br>【取組の効果】<br>・Ｃ社が事業継続されたことで、従業員の雇用が継続されたほか、外注先や販売先等取引先への影響を抑えることができた。<br>・Ｄ社は、Ｃ社事務所がこれまで営業範囲でなかった地域であったことから、新エリアへの事業展開を図ることができた。<br>またこれまで事業領域ではなかった包装資材事業への参入を図ることができ、今後倉庫事業との相乗効果も見込まれる。 |

| | |
|---|---|
| 銀行名 | 清水銀行 |
| タイトル | 取引先海外現地法人の事業拡大に伴う金融支援 |
| 取組み内容 | 【動機】<br>・Ｅ社は、自動車部品のプレス加工を行っている。<br>・主要取引先である大手企業(Ｔｉｅｒ1)からの要請に基づき、2年前にインドネシアに法人を設立し、工場を建設の上、現地へ部品供給を行っている。<br>・今般、現地向けの新モデル車が販売となるため、主要取引先からの増産要請に加え、現地での新規開拓先からの受注受入体制整備のため設備投資を行うこととなった。<br>・増設にあたり、当行に対して資金調達に関する相談あり。<br><br>【取組内容】<br>・Ｅ社からの資金調達は以下の通り。<br>1.資金調達にあたり、これまでは親子ローンのみで対応してきたものの、今後は現地法人の独立性を確保していきたいとの要望あり。<br>2.売上、支払ともに米ドル建てが増加していることから、今回為替リスクを抑えるため米ドル建ての調達を図りたいとの要望あり。<br>・以上のニーズを踏まえて当行は、業務提携を締結している国際協力銀行との協調融資を提案。<br>・資金調達に係る現地法規制の改定等もあることから、その点も対処の上、融資を実行。<br><br>【取組の効果】<br>・本件取組により、Ｅ社は為替リスクを抑えた米ドル建ての長期資金を調達することができた。また、一部現地法人への直接融資を行ったことで、財務面において本社と現地法人の間で一定の独立性を確保することができた。<br>・設備の増設が図られたことで今後Ｅ社の売上高増加が見込まれる。 |

| | |
|---|---|
| 銀行名 | 清水銀行 |
| タイトル | 第 48 回清水銀行杯フレンドリーシティ清水少年少女サッカー大会 |
| 取組み内容 | 【経緯】<br>・ 子どもたちがスポーツに活き活きと取り組めるよう、地域におけるスポーツの振興を図り、上記大会に協賛している。<br><br>【取組内容】<br>・ 平成 28 年 1 月 31 日に開催された決勝戦では、清水エスパルスのマスコットキャラクター「パルちゃん」が選手入場の先導や優勝・準優勝チームと記念撮影を実施した。<br>・ 併せて、エスパルスアンバサダーの齊藤俊秀氏、元エスパルス（現サッカースクールコーチ）の柴原誠氏によるサッカー教室を開催した。<br>・ 優勝チームには賞状・優勝杯に加えて、副賞としてエスパルス開幕戦（清水銀行デー：平成 28 年 2 月 28 日(日)）のチケット（12 チーム 227 人分）を贈呈。<br>・ 清水銀行デー当日は、優勝チームの記念写真を IAI スタジアム日本平のアストロビジョンで紹介した。<br><br>【取組の効果】<br>・ 本大会は「清水銀行杯」として第 26 回（平成 6 年 1 月）大会より 22 年間 22 回にわたり開催している。<br>・ 本大会は参加制限がなく、誰でも参加できるよう運営されており、サッカーに取組む少年少女の裾野拡大に一役買っている。<br>・ 地域の発展や青少年育成につながる CSR 活動であり、「サッカーの街清水」の発信にも貢献している。<br> |

| | |
|---|---|
| 銀行名 | 清水銀行 |
| タイトル | 三保松原植林・清掃活動 |
| 取組み内容 | 【経緯】<br>・世界に誇る「三保松原」（世界文化遺産）の保全と再生を目指し、当行が景観を次世代へ受け継ぐ担い手となるため、平成 20 年の当行創立 80 周年記念行事として、植林・清掃活動をスタートさせた。<br><br>【取組内容】<br>・活 動 日：平成 27 年 12 月 5 日<br>・活動面積：8.7ha<br>・活動種目：植林（抵抗性クロマツ植林：70 本）、活動区域内清掃<br>・参加者数：55 人（当行内定者 53 人、本部行員 2 人）<br><br>【取組の効果】<br>・取組は毎年継続して行っており、今年で 9 年目となり、植林した松は合計 1,620 本にのぼる。<br>・地域金融機関として、三保松原の景観の維持と松原の保全・再生に貢献しており、今後も地域との絆を大切にした CSR 活動を継続していく。<br> <br> |

| | |
|---|---|
| 銀行名 | 清水銀行 |
| タイトル | 静岡交響楽団への特別協賛 |
| 取組み内容 | 当行は文化的事業への貢献として、静岡を活動拠点とする静岡交響楽団への協賛を平成 24 年から継続的に行っている。平成 28 年 3 月 27 日、当行が協賛する静岡交響楽団 第 63 回定期演奏会「オーケストラの日」が静岡市清水文化会館マリナートで開催された。<br>なお、今回は静岡市清水区にある高校吹奏楽部を舞台とした小説“ ハルチカ ”を静岡の魅力発信の１つとして応援していることから、地域応援活動の一環として、平成 28 年 3 月 23 日に地元清水南高校を訪問し、管弦学部の生徒へ静岡交響楽団定期演奏会のチケットを贈呈した。<br>当行は、本コンサート等の文化的事業への協賛を通じ、地域との絆を大切にした CSR 活動を継続していく。<br> <br> |